

## 【技術名】 流し込み施肥

# 流し込み施肥により追肥作業の省力化が図られるとともに、暑い時期の重労働から解放されます！

### 【技術の要約】

従来行ってきた水田に入っての人力による施肥や、動力散布機を背負って畦畔からの施肥作業に代え、水田の水口からかん漑水とともに肥料を流し込む追肥法は、施肥作業が省力化されるとともに、暑い時期の重労働から解放されます。

### 【技術の内容】

- 1 水に溶けやすい肥料（または液肥）を網袋に入れて水口からのかん漑水に短時間に溶かします。その後、多量のかん漑水により水田中で攪拌して肥料むらを軽減します。この方法は、かん漑水が豊富な地域で、ある程度の深水（7cm 以上）が可能な畦畔を持つことが必要です。
- 2 かん漑水が豊富ではない地帯等では、肥料の溶解を遅くするようコンバイン籾袋（2～3重）に入れた肥料を水口に設置し、時間をかけて（1～3時間）にかん漑水とともに流し込みます。この方法は肥料濃度がほぼ一定のため、肥料むらがあまりない追肥方法です。
- 3 流し込み施肥の導入には、田面が均平、水稻の生育が均一、減水深が大きいほ場（2cm/日以下）が適しています。また、水深がヒタヒタ状態（水深1cm程度）で流し込み施肥を開始します。



図1 溶けやすい肥料を短時間で追肥する方法



図2 時間を掛けて灌漑水とともに追肥する方法

### 【留意事項】

- 1 溶けやすい肥料を短時間で追肥する技術は平成8年度の普及技術です。時間を掛けてかん漑水とともに追肥する方法は、全国各地のほか本県試験場でも試験中の有望な技術です。
- 2 当技術のポイントは施肥むらの影響を最小限にすることです。そのためには、かん漑水量、かん漑時間、コンバイン籾袋枚数等多少のコツが必要です。技術導入当初は少なめの施肥量で行うほか、倒伏しにくい品種で試行するのをお勧めします。